



昭和38年から続くタイ釣り大会。昨年の優勝者は3.28kgの鯛を釣り上げた



約400kgの神輿を男衆40人が「チョウサジャ、チョウサジャ」と、掛け声をあげながら、海の中へと進んでいく



古来、潮待ち港としても要所だった大島瀬戸の名を冠した海鮮鍋「汐まち鍋」  
<http://tainabe.oobatake.net/>



釜めし あなご丼

### 鯛や魚介類の 美味しさを味わう ご当地グルメ

大島商工会が大島観光協会とともに、2年をかけて共同開発したご当地鍋「汐まち鍋」が昨秋完成した。特産の天然鯛をメインに、豪華な海鮮、鯛のアラからとった塩味のスープ、渦潮をイメージし、うず状に巻いた白菜が特徴だ。同地区内の飲食店5店舗が認定され、各々のオリジナル鍋を提供している。

このほか、大島産の新鮮な海の幸、山の幸がたっぷり入った「釜めし」や、新鮮な穴子に秘伝のタレを塗り、直火で炙った「あなご丼」なども大島の味として人気だ。

また、みかん栽培も盛んで、7月～8月の摘果作業でもぎ棄てられる摘果みかんを「もったいない」と、農家のお母さんたちが手づくりで加工したのが「橘香酢」である。手絞りのさわやかな風味が鍋物、揚げ物、魚料理などによく合う。



橘香酢

「もったいない」と、農家のお母さんたちが手づくりで

小さく甘みの少ない青みかんからつくられる橘香酢にはクエン酸がたっぷり



### 用明天皇と般若姫伝説にちなんだ 「大島俄まつり」

山口県の南東部に位置し、沿岸部、内陸部、半島・島しょ部からなる柳井市。大島商工会（中元茂雄会長）が管轄する大島地区は屋代島と向き合う市内東部エリアに当たる。同地区と屋代島間の「大島瀬戸」は、日本三大潮流の一つでもある。

この海岸線を舞台に毎年9月頃、繰り広げられるのが「大島俄まつり」。海原神社、鳴門神社から繰り出される男神・女神の神輿を担ぎながら町内を練り歩き、夕刻、浜から海に入り、水しぶきの中でもみ合う家内安全、豊漁祈願の勇壮な祭りだ。二つの神輿が海中でもまれる光景や、神輿が海辺を右往左往する様子は、海辺で用明天皇が後の般若姫に思いを馳せる姿を表しているという。

大島瀬戸一円は鯛釣りスポットとしても有名で、毎年「シーガーカップ争奪サザンセット 大島タイ釣り大会」が行われている。昨年で第51回の開催を数え、うず潮にもまれた身の締まった鯛を求め、毎年100人を超える太公望が訪れている。



地域紹介 わがまち わがむら

# 大島瀬戸の潮流にもまれ育った 先見と気骨

おおばたけ  
山口県柳井市 大島地区  
(遠崎・大島・神代)

万葉集にも登場する大島瀬戸。最狭部約700m、最大潮流約9ノット、水深約20mで、全長1020mの大島大橋が架かる

## 松陰が讃えた僧・月性を生んだまち

NHK大河ドラマで長州藩を舞台にした「花燃ゆ」が放映中だが、明治維新を先導した志士たちの学び舎は、西の村塾、東の草堂と呼ばれていたのをご存知だろうか。萩の「松下村塾」に対し、草堂すなわち「清狂草堂」を山口県の現・柳井市大島地区に開塾したが、僧・月性である。

月性は、同市遠崎の妙円寺に生まれた。漢学、仏学、詩学の師を九州の豊前や佐賀に求め、その後、畿内を中心とした各地に遊歴して天下の諸名士と交流を深めた。

ペリー来航の際、月性が藩主に建白した「内海杞憂」では、新たな兵制の確立をはじめとした海防五策を提唱し、高杉晋作の奇兵隊創設などに大きな影響を与え、「海防僧」と呼ばれるようになった。

嘉永元年、31歳の時に開いた私塾・清狂草堂には、久坂玄瑞、世良修蔵、赤瀬武人ほか、若き志士が集い、多くの優れた門下生を輩出した。

安政5年、42歳で病没するが、親交の深かった吉田松陰が翌年、安政の大獄によって処された際、その遺書の中で「藩内で最も才知が優れ称賛すべき人物は月性である」と書き残している。

月性が7年間開いていた清狂草堂。一般的には時習館と呼ばれ、多くの志士が学んだ



男兒立志出師關  
學若為成不復還  
埋骨何須墳墓地  
人間到處有青山

強兵、海防を論じるなど、磊落不羈な印象の月性だが、詩人としての才能も卓越していた。「男児志を立てて郷関を出づ」の立志の詩はつとに有名な

妙円寺の門構え。妙円寺境内にある「月性展示館」には書画、額画、巻軸、書冊など、約600点が収蔵されている月性公式HP <http://www.gessho.org/>

